



ふれあいが

かわら版 第8号



ライオンズクラブ国際協会 335-D 地区キャビネット 〒670-0932 姫路市下寺町 43 姫路商工会議所新館 3F
TEL 079-281-8444 FAX 079-281-8421 http://www.lc335d.gr.jp

光：感動そして感謝

光をありがとう!

見える事の嬉しさ!

見える事に感謝!

見える事の感動!

献眼特集!

「光をありがとう」

兵庫アイバンクにお寄せ頂いた献眼をお受けになられた方と、献眼登録されたご遺族の方の投稿を御紹介いたします。

角膜移植を受けられた方の喜びの声

伊藤信夫様

約10年前に両眼の白内障手術を受け、その際に右目の角膜内皮細胞が正常値の1/10以下しかなく、「いずれ角膜移植を必要とする時期が来る」と言われていました。その後も継続して眼科治療を続けてきましたが、徐々に右目の視力が落ち、眼圧も上がり、掛かり付け医のご紹介で約2年前から神戸大学医学部付属病院の眼科で治療を受けることになりました。

誠にしらないことですが、それまで「移植」「アイバンク」という言葉は承知していましたが、それが「直接自分とは関係のない遠い存在」のような気がしていました。ところが、待機登録をしたことにより「直接自分のこれからの一生に重大な関わりのあること」へと気持ちが変わっていました。また、どなたかがお亡くなりになることによって、自分が救われるということであるのだろうか? という根源的な問題にも悩みました。しかし、どなたかの善意にお助け頂くことで自分が生かされることに感謝して、その時を待

つことにさせて頂きました。

期間としては、登録後2年から3年程度と言われていたので、こんなに早く手術の日を迎えることが出来るとは思っていませんでした。が、兵庫アイバンクから電話を頂き、急遽翌日入院・手術を受けることになりました。

お陰様で主治医の先生はじめ、多くのご関係者の手厚い治療・看護で無事に移植手術をして頂くことが出来、その後順調に回復し、通常の日常生活を送ることが出来るまでになりました。

改めて献眼して下さったお方様、並びにご遺族の方々に衷心から有難く厚く御礼申し上げます。また、手術をして頂いた主治医の先生・看護師・アイバンクの方々にも深甚なる謝意を申し上げます。有難うございました。献眼者・ご遺族の方々

の善意・ご理解があつて新しい光明をいただくことが出来、これからはその方々の善意に日々感謝しながら、自分の人生を全うさせて頂きたいと考えています。

多くの方の善意、並びに素晴らしい医療技術のお陰で頂いた「光」、改めて深く感謝申し上げます。

古本雅之様

これからも頑張つて生きていこうと強く思いました。

私は昨年、尊い角膜を頂き移植手術をしていただきました。まだ日にちは浅いのですが、順調に回復しております。角膜をくださいました方、そのご家族の皆さまありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

私は4月に70歳を迎えますが、今回は2回目の手術となりました。

1回目の手術は35歳の時です。右目に異常を感じたのはその3年前、真つ赤な充血と痛みでした。神戸大学病院に通院し

て治療を受け「角膜ヘルペス」と診断され、治療に長い期間が掛かるとうわかりました。

勤め先に迷惑をかけることになりましたが、4か月余り休職して治療に専念しました。

その後、症状が落ち着き仕事に復帰しましたが右目の視力が大きく低下し左目に頼る不自由な日々が続きました。

家庭では二人の子供がまだ幼く、家族の将来にも不安を覚え気分も沈みがちな毎日でした。そんなある日、先生より角膜移植のお話を頂きました。

3年近く待機して角膜を頂けることになり、移植手術を受けました。

手術は局所麻酔で行われ、室内の音や会話が聞こえて緊張したことが、また長時間動かさずにいることがきつかったことを思い出します。

手術後も動かないよう頭を固定されて大変でしたが、診察を受けるたびにハッキリと見えてきてとても嬉しかったです。



右目が光を失いかけた恐怖心・失望感から解き放たれて希望の光が見えた思いでした。

角膜を頂けたことが嬉しく、これからも頑張つて生きていこうと強く思っていました。そして頂いた角膜は長い間私を支えてくれました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

35年の間私の生活を守ってくれた角膜ですが、数年前から角膜の弱りと白内障が進んで視力低下が進んできました。そして、今まで頼ってきた左目にも白内障の症状がでてきたため、再び不安な日々を送ることになりました。

これからの事を思うと「手術しなければどうなるのか?」「右目は再手術が可能な状態か?」など心配なことがかりでしたが、先生に角膜の再移植について相談させていただきましたところ「手術は出来ませよ」と詳しく説明を頂き、2回目となる手術をお願いしました。

今度の手術は全身麻酔

で行われ、3時間後には病室のベッドの上ででした。

前回と違って体の固定は無く、しばらくの間安静にした後は、普通の動作・行動が許されて驚きでした。

これも医療技術の進歩、携わる先生方のお陰によるものと感謝の念にたえません。

お陰さまで、とても良く見えるようになり喜んでおります。角膜をご提供くださいました尊いご遺志に感謝を忘れず、大切にしていきたいと思います。そして、残された人生を少しでも社会に恩返しできるように頑張ります。

最後になりましたが、神戸大病院の先生方、看護師の皆様、兵庫アイバンクの皆様、大変お世話になりました。有難うございました。

角膜提供をされた

ご遺族の方の声

尼崎領一様

「生命のバトンタッチ」をすれば、もっと優しい社会になるはず。

平成25年1月4日に父

は市民病院にて78歳で天国へ行きました。父は、とても優しく、面倒見の良い人でした。母を愛し、僕ともつと兄弟3人を愛情持っていていつも笑顔で冗談話をする人でした。

父が生前よく言っていたことがあります!「俺が死んだら、目でも耳でも腎臓でも肝臓どこでもええから使えるところは使ってもええで!俺は死んでいるねんから何も思わないし、痛くもない!困っている人がいたら、おれのでよかつたら使ってほしい!」この言葉を思い出して、市民病院の先生に相談したところ、「眼の角膜の提供が出来る。」と言っていましたので、僕は、迷わず父の目を兵庫アイバンクに提供することを決意致しました。そして、コーディネーターの渡邊さんに来て頂き、眼球提供をしました。渡邊さんは仏様になった父に、大きな声で「黙祷!」と言いつつ、合唱してくれました。僕はあの時の風景を今でも忘れません!大変感謝しています。

無事に父の眼球は摘出され、義眼を入れて頂きました。本当に父の顔は仏様のように美しい顔と姿でもありました。

人は必ず死がきます。その時自分の体の一部でも今困っている人がいれば、「生命のバトンタッチ」をすれば、もっと優しい社会、もっと人間らしく終われると私は思っています!このことをもっと多くの人に知ってほしいのと協力をします。

僕も、車やバイクをよく乗るので、是非生命の終わりが来たのなら、使える臓器、目など使える所は、次の方へと「生命のバトンタッチ」をしたいと思えます!またそこで人の役に立てることを人としての誇りと考えています!

天国のお父さんへ「あなたの目は次の方の役に立っているよ!立派だよ!本当の優しさを見せてもらったよ!ありがとう!」

僕も、自分の命に何かあれば一緒のこととするからね!

合掌!

父の献眼を経験して

小畑 美由紀様

父が献眼に至ったきっかけは、私が参列した近所のおばあさんのお葬式でした。

おばあさんは、誰かの役に立ちたいと生前から言っておられ、大屋ライオンズクラブの勧めでアイバンクに登録され、角膜を提供されたことを知り、おばあさんの崇高な考えと家族の受け入れに對し大きな感動と衝撃を受けたことを今でも覚えています。

おばあさんの葬儀終了と同時に、さっそく近所の大屋ライオンズクラブの方にお話を伺い、私もぜひ協力したいと申し出ました。その時に大屋ライオンズクラブは目の不自由な方に光を与えてあげるために、アイバンク登録者を募る活動を積極的にやっていることを知りました。

私は保健師をしており、私の死後に体が役に

立つのであればと思います。臓器提供意思表示カードも早くから整えていましたが、家族への勧めまではしていませんでした。

このたび大屋ライオンズクラブの方の積極的な勧めにより、私自身のみならず家族間で角膜提供について話をする機会を持つ事ができ、父も賛同してくれました。

そうこうしているうちに父の具合が悪くなり、医師からは入院も勧められました。父は家で死ぬと言いきりました。

家族として父の最後の望みをかなえてあげようと主治医と共に在宅での看取りを決めました。

死期が近づくにつれ、角膜提供のことが頭に浮かび、担当看護師にも相談しましたが、

「面倒なことが多いから断つたら。」と言われ、私自身も(眼球摘出は医療行為だから在宅で亡くなってきつと病院に遺体を搬送して、病院で眼球を摘出するんだうな、死んでからそんな



ことまでするのは面倒やし、こんなことは病院で亡くなる人しかできないことなんでしょう。と思いきや、やっぱりそんな面倒で大変なことはやめようかという気持ちで頭をよぎりました。

そこで、半ば断るつもりでライオンズクラブの方へ連絡を入れたところ、「眼球摘出は家でできる。夜中でもいつでもアイバンクの人が待機していて医師と連絡して家まで来てくれるから亡くなったらず連絡したらいいし、せつかくお父さんが意思を示しているのだから、ぜひその思いを受けて提供してほしい。また神戸から来られるので時間がかかるけど、角膜が乾燥しないように濡れたガーゼなどで眼を覆ってもらっていたらいい。」とのアドバイスをいただき、つぎり近くの病院ですらと思っていたので、家でできると聞き、目からうるこ状態でした。

それなら父の意思を受け止め、目の不自由な方のために父の角膜を提供

しようと、家族も気持ち

が固まりました。その日の夜中に父は亡くなり、本当に夜中で申し訳ない気持ちもありましたが、ライオンズの方の心強いアドバイスのおかげで、迷わずアイバンクの方へ連絡を入れさせていただけました。

実際には家に到着されるまでに思ったより時間はかかりましたが、家での眼球摘出に、私も母も立ち会い見学までさせていただくなど、病院で亡くなった方にはできない経験もさせていただけました。摘出後も義眼を入れ、瞼の縫合により外見では摘出したこととはわからない状態にしていたことができました。

摘出にあたっては、遺族への意思確認、感染症がないかを見るための血液検査、眼球摘出と最後の仕上げなど、一連の作業には約1時間半程度かかったように思います。が、悲しみよりも誰かの役に立てたことや父の思いを果たすことができたという満足感がわいてきました。

ました。

今回の父の献眼を経験して感じたことは、具体的な献眼の仕組みはまったく知らないということ、誰かの後押しがないと登録や実際の献眼に至るには難しいこと、医療関係者の看護師でもやる方向にアドバイスをしてしまい、本人や家族の意思をぐらつかせることもあるということ、でも逆に、父の葬儀終了後、お寺さんが「お父さんはええことしたな。わしもさつそく登録するわ。」と言ってくださり、私が感銘を受けたように葬儀に参列された方にも登録の輪が広がっていくきっかけにもなるということ、

私の場合には大屋ライオンズクラブの方の積極的な後押しがあったことで実際の献眼に至ったわけですが、アイバンク自体も職員は少なく、啓発や身近な個人々人へのかわりには限界があると聞いています。

今後はこのような実際の経験を広く多くの方に知っていただき、一人でも多くの方がアイバンク

登録されるとともに最終的に実際の献眼に至るよう、微力ながら協力をさせていただきます。と思います。

仏壇の前の多くの感謝状を見るにつけ、父の残してくれた崇高な遺志に改めて思いを馳せるとともに、どこかで父が誰かの目となり元気に生きていっていると思いが、本人及び家族が満足できる最期を迎えられたと感謝をし心穏やかに過ごしているこの頃です。

兵庫アイバンク副理事長
兵庫県眼科医会会長
加古川東ライオンズクラブ
平松邦夫



角膜を差し上げるといふことは自分が生き続ける事

兵庫県内のライオンズクラブA地区とD地区と兵庫県眼科医会とが共同で平成六年に設立したのが公益財団法人兵庫アイバンクです。角膜移植で

差し上げる方といただく方とされる方の橋渡しをしています。角膜移植の登録をされておられる方がご不幸となられたり、されておられなくてもその時に御連絡をいただければ、兵庫アイバンクのコーディネーターが眼科医師と一緒に御家にお尋ねして眼球をいただき、すぐに移植を必要とされておられるお方に角膜を移植する手術をいたします。

現在角膜の移植を必要とされて順番を待つておられる方は、一年や二年あるいはそれ以上待つておられます。どうしても待ちきれなくてしかも多額の費用が掛かっても構わない人は、輸入角膜をいただくかれています。現在日本人同士で角膜移植がなされているのは半分を切り、アメリカから提供された輸入角膜のほう

が半分を超えています。この現状はお互いに同胞を助け合ふべきとの観点からは問題が残ります。ご本人が角膜移植の登録をされていてご不幸になられた場合でも、その場でご遺族の反対にあ

ば眼球をいただくことは出来ません。眼球を差し上げた場合、目はへこむことなくきれいに縫い合わされて外見上は元のままになります。少なくとも見た目の支障はありません。

不老不死は古今東西皆の願いでありました。もちろん人生には限りがあります。からだが朽ちてゆくときに角膜を他の元気なお方に移植すれば、一部とはいえ他のお人の身体を借りて自分が生き続ける。とも解釈できます。自分の角膜を他の人に移植するということは、自分が無くなった後も、自分の目は他の人の身体を借りて物を見続けてゆく。なんとすばらしいことではないでしょうか。角膜移植の意義をもう一度考え直してみたいものです。

ご連絡は、公益財団法人兵庫アイバンク
TEL 0120-69-1010

アイバンクについて
公益財団法人兵庫アイバンク
事務局長兼コーディネーター
渡邊 和誉



アイバンクとは、角膜移植によってしか視力を回復できない患者のために、死後、眼球を提供することに本人または遺族の同意を得て、移植を待つ患者に斡旋する公的機関のことをいいます。

日本でのアイバンクは、厚生労働大臣の許可を受けて運営される「眼球あつせん業」を得て活動し、日本全体に54行あります。そのうち、兵庫県下については公益財団法人兵庫アイバンクが中心となって活動しています。

このいのちの架け橋について、24時間365日体制で対応するのがコーディネーターの仕事です。現在2名のコーディネーターで提供のご意思を尊重できるように活動しています。

移植するのは角膜ですが、提供していただくのはあくまで眼球となります。一番気にされるのが、提供後どのような状況になるかですが、義眼を入れさせて頂きますので、安らかなお顔に戻すことを一番に心がけて対応し

ています。

アイバンクに眼球を提供することを献眼といいますが、献眼に事前の登録は必要ありませんが、アイバンクに献眼登録を行なうと献眼登録者カードが発行され、これを携帯することで自らが献眼の意志があることを示すことができます。また臓器提供意思表示カードや運転免許証、保険証などでも同様に意志を示すことができます。しかし

献眼は本人の意思表示があつたとしても、家族の同意がない場合はできませんので、事前に家族と十分話し合う必要があります。また逆に本人の意思表示が無くても家族がその意思を押し量り提供することも可能です。是非、今一度眼球提供といういのちの架け橋について考えて頂けませんかでしょうか？

登録だけに終わらせないアイバンク
335・D地区献血・視力等社会貢献委員長
今里朱美

ライオンスクラブの重

要な奉仕活動の一つに視力ファーストがあります。メガネのリサイクルや、盲導犬支援、等々に尽力頂いているライオンズクラブもありますが、今回取り上げるのは献眼です。今年に入って、2つのお願いをしました。

アイバンクの活動と献眼の実際についての再認識を図るために、学習会をクラブ例会にて行つて下さい。

すでにアイバンク登録されているメンバーについて、亡くなられた場合のフォロワーを行つて下さい。

お恥ずかしい話ですが、献眼という言葉は知っていました。アイバンクも活動はよく知りませんでしたが、献眼そのものについても、他の臓器移植とは違って、死後24時間以内摘出し、義眼を装着していただきま

さい。

また、アイバンクに登録されているにも関わらず、その意志が活かされないままに終わっていることです。献血のように常に血液を集めるのとは違って、献眼登録をされたライオンズメンバーが、献眼をされるだけで、角膜移植を望まれる患者数を充足できるという事です。現在全国に移植を待っている方は約5千人で、兵庫県に限れば約170人と聞いています。登録するだけでは、何の役にも立たないという事です。

なぜ、遺志が生かされないのか。いくら本人が望んでいても、献眼の実際にはご家族の理解と速やかな行動が求められますが、亡くられた悲しみや葬儀に至る準備に意識が向いてしまつたらと思われま

す。そこで、一言「献眼はどうされますか？」と声をかけることも必要でしょう。その役割は訃報をいただいたライオンズメンバーしかできないことです。さて、もう一つ驚いたことには、角膜は老化し

ないということ。何歳までしかなないので、何歳でも行えるということ。献血では若年層への呼びかけをお願いしましたが、ぜひ高齢者への呼びかけを行つて下さい。人生の終わりに近づいた中で、身の処し方を考えられると思います。元気なうちに終末を考

ないという事です。何が回復することができません。

（財）兵庫アイバンクは角膜を提供していただく方と必要とされる患者さんとの間を結び、角膜移植が円滑に行われるよう活動しています。

眼球（角膜）の提供に年齢制限はありません。近視・遠視・乱視・白内障・老眼の方もご提供いただけます。

登録の際に、検査などは一切必要ありません。白内障など手術後の眼球でも登録して頂けます。眼球（角膜）の提供は心肺停止後12時間以内、出来るだけ早くの摘出が望ましいのです。アイバンク登録者が減少しています。

移植待機患者数が増加している現状もありご協力をお願いします。環境づくりとして提供ご家族の理解と協力へのPR
献眼登録者の募集拡大
献血と併行してのPR運動



YCE

冬季派遣学生帰国報告

藤本理沙

私は、12月21日〜1月9日まで、約20日間マレーシアに、交換留学させていただきました。

行くまでは、英語が通じるのか、家族と離れて大丈夫なのか、という不安がこみあげていました。が、行ってみると、ホームファミリーが温かく、そしてまるで家族のように私を迎えてくださったので、その不安は除かれ充実した時を過ごすことができました。

また、ホームファミリーには私と同級生の女の子と一つ年下の男の子がいたので、色々な話で盛り上がりたり、買い物へ行ったり、一緒にトランプで遊んだりして、ティーンならではの遊びもできて楽しみました。また、ご両親にも大変お世話になりました。私が喜ぶ場所や親戚の集まり、そして、美味しい御飯屋さんにもたくさん連れて行ってくれました。ホームファミリーは本当に日本が大好きな家族

で、たくさん日本の事を聞かれました。しかし、私の知らないことが多く、逆に教えてもらっている感覚でした。やはり自国の事をもっと知らなければならぬと実感しました。カメランハイランドでのキャンプでは、関西組と名古屋組が一緒で、15名の日本のメンバーとホームファミリーの代表(同じ年代の人)が集まりました。そして、夜にはそのメンバー全員が集まり、チームを組んで歌を歌ったり、異文化交流をしたりして過ごしました。

二ヶーション能力と英語力を身に付けることができました。そうした目に見えてとれるものもある一方で、自分の心や知識なども著しく成長できたと思います。また異なった文化を持つ生活をして当たり前だと思っていたことが実は当たり前でないことにも気づき新たな発見になりました。私はこの機会をいただき本当に良かったと思います。有難う御座いました。



小林未侑
新発見、初体験の連続に圧倒された19日間。初めての出会いにあふれたこの留学を、私は一生忘れないと思います。それまで海外経験がなかった私は、期待よりも、不安と緊張で押しつぶされそうな気持ちを抱えたまま、出発しました。家族や友達と離れて、飛行機で15時間もかかるほど遠くに来たことも、当然生まれて初めてでした。今回の留学プログラムの前半はホームステイ研修から始まりました。最初に日本との違いを感じたのは、食べ物でした。日本に比べると、フルーツマーケットがとてもなくさんあり、多くの人が早朝から採れたての新鮮な

果物を買っていきます。加工せずそのまま食べても甘くてとてもおいしかったです。また、ポイズンベリーと呼ばれる黒っぽいベリーを、ホストファミリーがホーキポーキアイスクリームにのせて食べさせてくれました。日本とは違う食材と調理法で出される食事は、まさに異文化体験でした。夏のクリスマスも初めてでした。サーフィンを乗ったTシャツのサントクロースには会えませんでした。が、親戚がみんな集まって、ブレゼント交換をしたり、特別な食事を楽しんで、賑やかに過ごしました。また、農場もあって、羊や馬、鶏、牛と触れ合う機会もありました。

19日間の後半はサマーキャンプに参加しました。ここでは本当にたくさんのお出合いがありました。ホームステイとは違って、オーストラリア、インド、マレーシア、イタリア、ブラジル、アルゼンチンなど8ヶ国から集まった参加者たちは、母国語がそれぞれに違うので、共通言語は英語しかありません。私は、何年も英語を勉強してきたのだから、なんとかなるとたかをくくっていましたが、英語圏以外の人との会話で、自分の英語力がいかに限られたものだったかを痛感しました。それでも、なんとかお互いに必死にジェスチャーを交えて話すうちに、少しずつコミュニケーションも取れるようになりまし。みんな協力してキャンプ生活をし、バンジージャンプや、娯楽を超えた本気のアスレチックも体験しました。また、滝や川、日本では考えられないような泥だらけの沼地にも入りました。マオリ族の伝統民族舞踊であるハカを習ったことも貴重な体験でした。そして、参加者全員でカウントダウンを叫んで、花火で新年を祝ったことも、言葉では伝えられないくらい感動でした。ニュージーランドで、様々な国の人たちと出合い、時間を共有し、共に行動することで、私の中

にあつた無意識の偏見が消えていった気がします。文化の違いを否定するのではなく、お互いを受け入れ、尊重し合つて仲間になっていく姿に刺激を受けました。いちばん仲良くなれたのがイタリア人でした。きつかけは彼らが日本に興味を持って来ていたからでした。日本に来たこともあつて、日本の歌も知っていました。そのことが思いの外うれしくて、私も一生懸命英語を話し、イタリアの歌を教えてもらいました。ほんの小さなことからつながりが生まれ、国際交流が始まるのだと実感しました。



4R1Z

村岡ライオンズクラブ

今までは新しい夢があり、今までは英語を上達したいと漠然と思つていただけでしたが、本気で使えるようになりたいと思うようになりました。そして、イタリアに留学したいと考えています。もう一度彼女に会えた時には、今以上に成長した自分を見せたいです。このプログラムを勧めてくれた祖母に感謝しています。そして新しい自分に会おうチャン

スをくれたライオンズ関係者の皆様、本当にありがとうございました。

3月9日(金)から約1週間かけて、会員が香美町村岡区内80歳以上のひとり暮らしの方々160人を訪問しました。この激励訪問は30年前から続けており、直接お顔を見ながら声かけするとともに、カラコンエの鉢花をプレゼントして喜んでいただきます。この活動は地元紙の「日本海新聞」に掲載されました。私たちはこの活動を40年、50年と継続していきたいと考えています。

村岡LC

鉢植え手渡し激励

ひとり暮らし高齢者を訪問

村岡ライオンズクラブのお年寄りを訪問。同クラブが30年前から(地主明会長の会員が、し、カラコンエの鉢植えを贈っている。区内に住む80歳以上のひとり暮らしのお年寄りの60人が対象。25人の会員が分担当し、1週間かけて訪問している。例年3月上旬に行つており、以前はお年寄り宅周辺の雪かきも行つていたが、近年は降雪量が減つたため激励訪問だけになった。今年9日から訪問活動スタート。同区川会の中村裕子さん(82才)には、同クラブ幹事の石井利彦さん(81才)が訪問。赤いカラコンエの鉢植えを手渡した。



カラコンエの鉢植えを笑顔で受け取る中村さん(右)。

中村さんは「本当にありがたい。来年も花を受け取れるように元気でいよう」と勇気やファイトが湧きます」と笑顔で話していた。(吉浦郁夫)

きました。

1R2Z

姫路中央ライオンズクラブ 高校生春休み血液センター見学ツアー

幹事 池本史朗

去る、三月二十九日に高校生男性五名、女性三十名の三十五名とクラブ会員七名と姫路みゆき献血ルームの女性職員さんと大阪府茨木市にある「近畿ブロック血液センター」へバスで見学に行



これは、高等学校に、兵庫県赤十字血液センター「姫路営業所」の方が、高校生向けに「高校生対象献血セミナー」を実施されているのに対して、我がクラブは高等学校を紹介し、協力をしています。が、献血した血液は、どのようにしてどのようになつていくのか、実際に見て経験していただく事でより一層分かるのではないかと、今回計画実施いたしました。

高校生の募集は、「姫路みゆき献血ルーム」へ献血に来られた高校生に募集チラシを渡し、お友達と一緒に申し込んでねと声を掛けていただきました。今回は、保護者の承認を頂く事になつたので、二度手間な事になつてしまい、考慮する事も知れませんが、参加者の学生から「こんな良い事姫路駅前配つて欲しかったな。私は来られたいけど、知つていたら来たい人がもつといたと思う。」と心強い言葉を頂きました。アンケートの結果三十五名中二十一名がみゆき献血ルームで案内を買って、十一名が友達に誘われ、親に勧められた方と、スマホのHPを観た人がそれぞれ一名でした。

さて、当日は姫路駅南のバスターミナルへ集合。みんな早く集合して名札をつけたら出発。少しだけですが、学生にお菓子の袋詰めをお配りしました。大喜びです。行きは白血病を題材にしたDVD「ありがたうの手紙」を見ながら新しくできた新名神を通り近畿ブロック血液センターへ向かいました。予定の十時より少し遅れましたが、近畿ブロック血液センターの所員さん、ボランティアの方、姫路から別便で来られた姫路営業所の所員さんにお出迎えしていただきま



した。まずは研修室へ入り、プロジェクターで血液型の種類や献血の重要性や、血液のお話でした。血液型もA・B・AB・O型の分類だけでなく、他にも沢山の種類の仕方があるのには、みんな驚きでした。

そして、二班に分かれて実際に作業している所へ見学に行きました。赤血球・白血球・血小板等大きさが違うので、フィルターを通して分類していく様子をみんな、神妙な顔で観ていました。

献血する時に最初の血液二十五mlは皮膚の破片やゴミなどが付いているので別の袋に収納され、その血液で、色々検査をされるそうです。合理的な方法だなあとみんな感心していました。世界で初めて献血したのが一六六七年に小羊の血液を青年に輸血して回復をした献血の歴史などを真剣な眼差しで聞いていたのがとても印象的でした。血液の白血球が輸血すると悪い症状が起こるので、成分分けして白血球を取り除いている事も知り、勉強になったそうです。

です。

そのあとは弁当をバス車内で食べ、カップヌードルミュージアムへ行きました。みんな思い思いのカップに絵を描きラーメンを入れていただき四種類のトッピングに好きな出汁味を入れて、自分だけのマイラーメンのできあがり。学生もメンバーも子どもになったように一生懸命作っていました。

記念撮影を撮って姫路まで帰ってきました。帰りも車中で「八月の二重奏」のDVDを観てみんな感涙していました。

ツアーの最後にアンケートを採りました。参加者のうち献血をした事のある方は三十五名中十七名でした。これから献血をするのは二十六名の回答、分からないが六名ですが、わからないの回答の方に最後の意見にこれから献血に行きたいと希望が書かれました。見学ツアーも三十四名の方が良かったと言ってくれました。

クラブとしては、血液センターでの研修ばかりでは・・・と思い研修を九十分コースにしてマ

イカップを作りに行ったのですが、「とても楽しめました。ありがとうございました。ラーメンミュージアムでの自由時間はもう少し短くても良かった。逆に血液センターでももう少しゆっくり勉強したかったです。」バスで観たDVDがとても良かったです。少しでも患者さんの心に寄り添えるような看護師を目指して頑張ります。もちろん献血します。」との意見があり、真剣に参加してくださってるのだと嬉しく思いました。



1R1Z
姫路大手前ライオンズクラブ
結成50周年記念大会を
終えて
結成50周年記念大会
大会委員長 河越祥郎



2018年3月22日(木)
16時20分より、姫路キヤッスルグランヴィリオホテル3階大広間にて、姫路市長 石見利勝様、兵庫県中播磨県民センター センター長 田中基康様、ライオンズクラブ国際協会 国際本部役員 元国際理事 L西川義規、ライオンズクラブ国際協会 335 D地区 地区ガバナール小林 寛をはじめ、335 D地区地区役員の皆様、そしてスポンサークラブ、姉妹提携クラブ、エクステンションクラブの皆様、総勢250名の多数の方々



に御多忙中にもかかわらず、お集りいただき、当クラブの50周年に華を添えていただき、誠にありがとうございます。大変盛大な50周年・半世紀の節目となる記念式典・祝宴が出来ました事、心より感謝申し上げます。私共、姫路大手前ライオ

ンズクラブメンバーは今までに残されてきた諸先輩の意義と深い伝統をこれから歩むべき新しい時代のライオンズで、将来のある融合を探り、地域に密着した奉仕ができるライオンズとして、来るべき60周年、70周年に向けて1R1Zの導き手となるようなライオンズをメンバー一同が心新たに邁進することを誓います。



4R1Z

大屋ライオンズクラブ

献血と献眼登録の協力
3月30日 大屋地域局前
にて献血と献眼登録の協
力をしました。



5R1Z

龍野ライオンズクラブ

薬物乱用防止教室



1月29日・30日の2日に
わたり、たつの市立新宮
小学校と龍野小学校にお

いて薬物乱用防止教室を
実施した。プロジェク
ターを使って講演形式で
行い、児童たちには薬物
乱用防止小学生向き読本
と3D下敷きを配布して
見ながら学習してもらっ
た。標本で薬物を紹介も
し身近に潜んでいる薬物
の怖さを知ってもらっ
た。教室の締めくくり
は、皆でゼツタイダメ!
と手を挙げながら唱え
た。



出前講座を実施



3月6日(火)に兵庫県
立龍野北高等学校の2年
生を対象に出前講座を実
施。全体基調講演では「人
として生きる」をテーマ
に自分の持っている可能
性を実現することの大切
さ、社会をつくっている
のは人(共生)など社会
人としての心構えで大切
な事を学ぶ場となった。
また、分科講演では6学
科でそれぞれ専門の方の

話を生徒たちは熱心に聞
き、これから目指す職業
の大切な事を学べたと生
徒の声を聞けて、出前講
座の意義の大きさを感じ
た。



5R1Z

山崎ライオンズクラブ

第13
回六粟市
さつきマラソン大会



4月15日(日)第13回六
粟市さつきマラソン大会
が開催されました。大会
当日は天候にも恵まれ、
全国から2,497名の
ランナーが参加されまし
た。警備のボランティア
として当クラブのメン
バーも参加し、沿道から
声援をおくりました。



5R1Z

はりま一宮ライオンズクラブ
交通安全街頭指導

3月15日六粟市一宮町神
戸地区の2ヶ所で朝の登
校時に交通安全街頭指導
を行いました。

3月19日六粟市役所に
て、六粟市との災害時ポ
ランティア協定を結びま
した。



薬物防止協議会へ助成

4月25日薬物乱用防止活
動を支えるために、西播
磨地区薬物乱用防止指導
員協議会へ助成金を贈り
ました。

